

静岡市サッカースタジアムを活かしたまちづくり検討委員会  
(令和4年度 第4回：書面開催)

次 第

開 催 日 令和4年11月14日(月)

1 第3回の振り返り

(1) 第3回検討会の意見と対応

資料-1

参考資料-1

2 議 題

(1) 候補地の抽出と評価のまとめについて

資料-2

(2) パブリックコメントについて

資料-3

## 第3回 検討会の意見と対応

No	意見	委員名	当日の対応	対応
1	災害リスクの評価に「+（プラス）」がついている候補地があるが、このプラスはどう判断すればいいのか。災害リスクへの対策は、最終的にはコストの問題になると考えている。コストが明らかにならない状況で候補地を決めることは難しい。また、防災拠点として利用するという考え方もあるが、求められる基準が高くなるため、コストに反映される。コストがどうなるかを常に頭に置いて議論をする必要があると考える。	池田委員	災害リスクや土壌汚染対策、渋滞対策等のコストについて記載はしているが、詳細の金額までは調査出来ていない。候補地がある程度絞り込まれた後に、詳細なフィジビリティ調査を実施する必要があると考えている。コストも含めた実現可能性について引き続き調査をしていく方針である。	今後、調査検討していく。
2	貝島についても工業での土地利用の履歴があるため、資料に記載はないが、土壌汚染のリスクがあると考え。その点についても詳細な検討を進めの中で考えてもらいたい。	黒瀬委員	貝島についても土壌汚染のリスクも含めて詳細な検討を進めたい。	貝島についてはまちづくりや交通アクセス、津波対策等多くの課題があることから候補地から除外されたため、詳細な検討は不要となった。
3	土壌汚染対策やインフラ整備にかかるコストだけではなく、騒音や光、渋滞などの目には見えない社会的コストもあると考える。また、整備する場合には近隣住民への説明なども必要になってくる。	菅委員	今後の検討の中で考えていきたい。	今後、調査検討していく。
4	スタジアムを中心に意見が出ているが、まちづくりの視点も必要だと考える。清水駅周辺のまちの将来像はすでにガイドプランが出来ている。現スタジアムの改修や貝島スポーツ広場に整備する場合に、それぞれの候補地がまちづくりに与える影響について資料に入れてもらえるといい。	牧田委員	各候補地の具体的なビジョンやプランの記載はないが、資料には周辺の活性化や開発可能性、周辺環境への影響として記載している。	—
5	来年度フィジビリティ調査を実施することだが、コストだけでなく収益につながるような経済的な効果も考えていく必要がある。まちづくりでの活性化にも通じるため、検討する必要がある。なお、今回の評価においてコストは対象外になるのか。	山室委員	コストが高いから不可というわけではなく、コストをかければ改善するという観点で今年度は議論してもらいたい。	—
6	候補地を一つに絞った後にコスト面で実現が難しくなった場合はどうなるのか。	池田委員	I A I スタジアムはJリーグ基準に適合していない状況であり、I A I スタジアムの改修は選択肢として残しながら進めていければよいと考える。そのためI A I スタジアムが、次の選択肢になり得ると考えている。	—
7	貝島がある三保地区は行き止まりになっており、交通網が十分でないため衰退している。例えば貝島へアクセスするための橋を架けるなど、清水港周辺の開発を通して、周遊できる交通網が整備できれば貝島も候補地になり得ると考える。	竹上委員	橋を架けるケースは時間と労力の観点から現実的に難しいと考えている。（黒瀬委員：世界遺産（三保松原）のバッファゾーンにかかるなど、協議や調整に多大な時間がかかる）	貝島についてはまちづくりや交通アクセス、津波対策等多くの課題があることから候補地から除外された。

令和４年度 第３回 静岡市サッカースタジアムを活かしたまちづくり検討委員会  
会議録

1 日 時 令和４年 10 月 24 日（月） 午前 10 時 00 分から午前 11 時 30 分まで

2 場 所 レイアップビル御幸町 5D 会議室

3 出席者 (委 員) 木宮会長、池田副会長、石川委員、内海委員、  
風岡委員、菅委員、黒瀬委員、佐潟委員、高田委員、  
竹上委員、牧田委員、山室委員  
(欠席：桂田委員、佐藤委員)

(事務局) 松浦企画局長、山田企画局次長  
鈴木企画課長、久野井課長補佐、乗松副主幹、渡邊主査  
谷川スポーツ振興課長  
長澤スポーツ交流課長

4 傍聴者 5 人

5 議 題 (1) 候補地の抽出と評価について  
(2) 市民・利用者アンケート結果について

6 会議内容

(1) 開 会

【事務局（鈴木課長）】

- ・開会
- ・桂田委員、佐藤委員はご欠席のご連絡を頂いている。今回はオブザーバーとして静岡県から経営管理部池ヶ谷理事、交通基盤部森本理事、港湾企画課北川課長が参加している。

(2) 第 2 回の振り返り

【事務局（久野井補佐）】

- ・第 2 回検討会の意見と対応について説明（資料 1、参考資料 1）

(3) 議 題

(3)-1 候補地の抽出と評価について

(3)-2 市民・利用者アンケート結果について

【事務局（久野井補佐）】

- ・候補地の抽出と評価及び市民・利用者アンケート結果について説明（資料2、3）

【木宮会長】

- ・事務局に挙げていただいた6か所以外に抽出基準を満たす土地はないという事で説明いただいた。また、6か所について諸条件を検討した結果、現実的な候補地は3か所であり、6か所から3か所に絞りたいとのご説明である。その後、3か所からさらに絞っていく流れになる。6か所から3か所に絞る段階で質問はあるか。

【委員】

- ・（異議なし）

【木宮会長】

- ・ご提案いただいた3か所で検討を進めることにする。最終的には皆様のご意見を踏まえて候補地を絞り込んでいくことになる。3か所それぞれに評価が整理されているが、ご意見やご質問はあるか。

【池田委員】

- ・例えば、災害リスクの評価に「+（プラス）」がついている候補地があるが、このプラスはどう判断すればいいのか。災害リスクへの対策は、最終的にはコストの問題になると考えている。コストが明らかにならない状況で候補地を決めることは難しい。また、防災拠点として利用するという考え方もあるが、求められる基準が高くなるため、コストに反映される。コストがどうなるかを常に頭に置いて議論をする必要があると考える。

【木宮会長】

- ・これまでの3か所への絞り込みまでは消去法的に進めたが、ここからは様々な視点から候補地を絞り込んでいく必要があると考えている。池田委員からのご意見に対して、事務局から回答はあるか。

【事務局（久野井補佐）】

- ・災害リスクや土壌汚染対策、渋滞対策等のコストについて記載はしているが、詳細の金額までは調査出来ていない。候補地がある程度絞り込まれた後に、詳細なフィービリティ調査を実施する必要があると考えている。コストも含めた実現可能性について引き続き調査をしていく方針である。



【木宮会長】

- ・今の時点では、コストをかけても解決可能なのかを判断することが重要であり、コストの具体的な内容については来年度以降に調査することになる。今回の検討委員会ではコストをかけたらできるのか、できないのかという観点で候補地の絞り込みを行いたい。

【黒瀬委員】

- ・今年度の検討で詳細なコストを出すことは非常に難しい。来年度に複数の候補地からコストも含めた詳細な調査を実施し、最終的に候補地を決定すべきだと考える。コストがわからない段階で議論を深めることが難しい部分もあるので、来年度詳細な調査をする前提で、今年度の議論を進めるべきだと考えている。
- ・また、貝島についても工業での土地利用の履歴があるため、資料に記載はないが、土壌汚染のリスクがあると考え。その点についても詳細な検討を進める中で考えてもらいたい。

【事務局（久野井補佐）】

- ・貝島についても土壌汚染のリスクも含めて詳細な検討を進めたい。

【竹上委員】

- ・それぞれの候補地について、整備や改修の方法でもコストが変わるはずである。課題を解決するための選択肢が複数あることも踏まえ、コストを考える必要があると考える。

【佐潟委員】

- ・候補地案に、現スタジアムの改修が案として残っている。現スタジアムには愛着もあり、改修により J1 リーグの基準に則ることはできると思われるが、アクセス面の解決が難しい。

【菅委員】

- ・土壌汚染対策やインフラ整備にかかるコストだけではなく、騒音や光、渋滞などの目には見えない社会的コストもあると考える。また、整備する場合には近隣住民への説明なども必要になってくる。

【事務局（久野井補佐）】

- ・今後の検討の中で考えていきたい。

【牧田委員】

- ・スタジアムを中心に意見が出ているが、まちづくりの視点も必要だと考える。清水駅周辺のまちの将来像はすでにガイドプランが出来ている。現スタジアムの改修や貝島スポーツ広場に整備する場合に、それぞれの候補地がまちづくりに与える影響について資料に入れてもらえると良い。

【事務局（久野井補佐）】

- ・各候補地の具体的なビジョンやプランの記載はないが、資料には周辺の活性化や開発可能性、周辺環境への影響として記載している。

【山室委員】

- ・来年度フィージビリティ調査を実施するとのことだが、コストだけでなく収益につながるような経済的な効果も考えていく必要がある。まちづくりでの活性化にも通じるため、検討する必要がある。なお、今回の評価においてコストは対象外になるのか。

【事務局（久野井補佐）】

- ・コストが高いから不可というわけではなく、コストをかければ改善するという観点で今年度は議論してもらいたい。

【木宮会長】

- ・候補地は3つに絞られているが、今後どう進めていくのが良いか確認したい。この3か所を候補地として進めていくのか、さらに絞り込んでいくのか検討したい。パブリックコメントでは複数の候補地があってもいいが、今年度最終的には1か所に絞っていきたい。
- ・ENEOSの土地についてはこれまでの議論を踏まえて、候補から外すことは難しいと考える。IAIと貝島を候補地として残すか検討したい。まずは貝島についてご意見あるか。

【内海委員】

- ・貝島は工業専用地域内に位置しており、周辺の人口を踏まえると、他の2か所と比較してもまちづくりの効果が出づらいと考える。そのため、候補地から外してもよいのではないか。

【石川委員】

- ・経済効果については、今後のフィージビリティ調査で検討いただきたい。交通アクセスの観点から、貝島は候補地から外してもよいと考える。



【池田委員】

- ・候補地を一つに絞った後にコスト面で実現が難しくなった場合はどうなるのか。

【事務局（久野井補佐）】

- ・I A I スタジアムはJリーグ基準に適合していない状況であり、I A I スタジアムの改修は選択肢として残しながら進めていければよいと考える。そのためI A I スタジアムが、次の選択肢になり得ると考えている。

【木宮会長】

- ・新たな候補地がコスト面などでどうしても上手くいかない場合、現実的な策としてI A I スタジアムの改修も選択肢になってくる。そのため、I A I スタジアムの改修を残しながら、E N E O S 跡地での具体的な検討を進めていければと良いと考えているがどうか。

【竹上委員】

- ・貝島がある三保地区は行き止まりになっており、交通網が十分でないため衰退している。例えば貝島へアクセスするための橋を架けるなど、清水港周辺の開発を通して、周遊できる交通網が整備できれば貝島も候補地になり得ると考える。

【事務局（久野井補佐）】

- ・橋を架けるケースは時間と労力の観点から現実的に難しいと考えているが、皆さんのご意見を頂きたい。

【佐潟委員】

- ・各地のスタジアムに行っているが、複数のアクセス手段があることが重要であると考える。特にアウェーの立場からみると、貝島は行きにくいスタジアムになると思われ、3か所の中では難しいと思う。

【黒瀬委員】

- ・貝島に橋を架ける場合、世界遺産のバッファゾーンにかかることも想定されるが、市だけの判断を超える。橋を前提にした貝島の選定は時間軸的にも難しいのではないかと。

【風岡委員】

- ・初見で貝島は現在課題となっているI A I スタジアムのアクセス面で変わらないのではないかと感じた。現スタジアムの改修にもそれなりの費用がかかるのではないかと想定される。

【木宮会長】

- ・貝島については様々な観点を踏まえると候補地として残すことは現実的に難しいということでご了解いただいたという理解である。3か所からさらに2か所に絞り込みをさせていただくということによいか。

【委員】

- ・(異議なし)

【木宮会長】

- ・それでは、現スタジアムの改修かENEOS製油所跡地かで今後の検討を進めていきたい。また、市の説明もあったが、コストなどの不確定要素がある現状では、2か所からさらに絞り込むことは難しい。この2か所からパブリックコメントを進め、第一の候補が検討できればよいと考えている。進め方に問題ないか。

【委員】

- ・(異議なし)

【木宮会長】

- ・当初は、第4回検討委員会の後にパブリックコメントを実施する予定だったが、おおよその方向性が本日固まったため、第4回の対面開催は省略し、必要であれば書面開催という流れを考えている。

【事務局（久野井補佐）】

- ・これまでの議論を踏まえて、検討の結果を整理した上で委員に確認させて頂く。

【木宮会長】

- ・IAIスタジアムの改修になった場合、まちづくりの観点から新しく何ができるかも検討してもらいたい。



(4) その他

【事務局（久野井補佐）】

- ・先ほども説明いただいた通り、予定していた第4回検討委員会は書面開催として、対面開催は省略とさせていただきます。

(5) 閉 会

【事務局（鈴木課長）】

- ・閉会

以上

(署名) 会長 木宮敬信



# 候補地の抽出と評価のまとめについて



# 1 第3回検討委員会の意見まとめ

分 類	発 言
<p>現スタジアムの改修 (I A Iスタジアム日本平)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ I A Iスタジアムに愛着を持っているファンが多いが、改修してもアクセス面の課題は解決されない。</li> </ul>
<p>J R清水駅東口 エネオス株式会社 製油所跡地</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ スタジアムを中心に考えがちであるが、まちづくりの視点も重要である。</li> <li>・ J R清水駅周辺については、ガイドプランがあるのでまちの将来像は既に出てきている。 (清水みなとまちづくりランドデザイン：清水駅東口・江尻口ガイドプラン)</li> </ul>
<p>貝島スポーツ広場</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 工業専用地域であることや、周辺人口を踏まえるとまちづくりの効果は発揮しにくい。</li> <li>・ 交通アクセスの観点からも、候補地から外しても良い。</li> <li>・ 過去に工業で利用していた履歴があるため、土壌汚染の可能性がある。</li> <li>・ 三保（貝島）のアクセス向上のため橋を架けるという方法もある。</li> <li>・ 世界遺産のバッファゾーンであることなど、課題は多く橋を架けることは現実的ではない。</li> <li>・ スタジアムへのアクセスは複数の交通手段があることが望ましいが、この場所は難しい。</li> </ul>
<p>その他 (防災・比較検討全般など)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 災害リスクへの対応はコストに影響するのでそれが明らかになっていない状況で候補地を絞り込むのは難しい。また、スタジアムを防災拠点とする考え方もあるが、求められる基準が上がるためコストが増加する要因になる。</li> <li>・ 今年度コストの詳細を調査することは難しいので、来年度にコスト等の詳細な調査をする前提で議論を進めるべき。</li> <li>・ 様々な対策やインフラ整備以外に、騒音や渋滞といった社会的コストも考えなければならない。また、整備する場合には近隣の住民などにも説明する必要がある。</li> <li>・ 来年度の調査ではコスト面だけではなく、収益にもつながるような経済的な効果も考えていく必要がある。</li> </ul>

## 2 評価のまとめ

### (1) 検討委員会における候補地の評価

- ・「現 I A I スタジアム日本平の改修」については、屋根などの改修を行うことによって、Jリーグスタジアム基準を満たすことはできるが、まちづくりやアクセス面に課題が存在する。
- ・「JR清水駅東口ENEOS株式会社製油所跡地」については、まちづくりやアクセス面で評価はできるが、一方で、津波、液状化、土壌汚染への対応、騒音、渋滞への対策、地権者との調整などの課題が存在する。
- ・「貝島スポーツ広場」については、まちづくりやアクセス面などの課題に加え、津波、土壌汚染への対応、騒音、渋滞への対策、地権者との調整などの課題が存在する。

### (2) 検討委員会の候補地評価のまとめ

- ・「JR清水駅東口ENEOS株式会社製油所跡地」が、まちづくりやアクセス面で評価できるが、多数の課題が存在するため、これらの解決にあたって、どのような対応が必要か、どの程度のコストを要するのか、などを検証する必要がある。
- ・また、これらの課題を解決することが難しい場合の対応として、「現 I A I スタジアム日本平の改修」についても、どの程度のコストを要するのか、あわせて検証を行う必要がある。
- ・なお、貝島スポーツ広場については、まちづくりやアクセス面などの課題に加え、津波、土壌汚染への対応など、多くの課題が存在するため候補地から除外する。

## 募集期間

令和4(2022)年

12月●日(●)

～

令和5(2023)年

1月●日(●)

新サッカースタジアムの  
候補地の検討について

皆様のご意見聞かせてください!!



現在のIAIスタジアム日本平は、Jリーグのスタジアム基準を一部満たしていないことや、アクセス性に課題があるため、「静岡市サッカースタジアムを活かしたまちづくり検討委員会」を設置し、サッカースタジアムを活かしたまちづくりや新スタジアム整備の候補地について議論してきました。

新サッカースタジアム整備の最有力候補地の選定(案)について、市民の皆様からのご意見を募集いたします。



# 新サッカースタジアムの検討について

## 1. 背景・経緯

現 I A I スタジアム日本平は、1991年に日本平運動公園球技場として、収容人数13,216人のスタジアムとして開場しました。のちにJリーグの開幕に合わせて改築し、今は20,299人収容のスタジアムとして市民の皆さんに愛されています。しかしながら、現在のJリーグのスタジアム基準を一部満たしていないことや、アクセス面での課題等があることから、「静岡市サッカースタジアムを活かしたまちづくり検討委員会」を設置し、新たなサッカースタジアム整備に向けた検討を進めています。

## 2. 現スタジアムの施設概要

- 【位置】 清水区 村松 3880-1  
【面積】 約2.3ha（スタジアム敷地）  
【管理運営】 静岡スポーツスクエア共同事業体  
【課題】 ・ Jリーグスタジアム基準である、「観客席の屋根のカバー率」が不足している。  
・ 交通アクセスに課題がある。 など

※Jリーグの基準で、既設のスタジアムは1/3、新設・大規模改修する場合は全ての観客席を覆う事とされている。



Google Mapより引用 ©2022Google

## 3. 検討の経緯（令和4年度 サッカースタジアムを活かしたまちづくり検討会）

令和4年度は下記のスケジュールのとおり、6月21日に第1回の検討委員会を開催し、候補地の議論を重ね、パブリックコメントを踏まえたうえで、2月上旬頃に検討委員会の最終意見をとりまとめる予定です。

検討の経緯	
令和4年度	
第1回（6月21日）	—
スタジアムの現状把握や検討委員会の進め方、アンケートの実施を決定	—
第2回（8月2日）	【土地の抽出基準】 ・ 公有地及び民有地：3.5ha以上の遊休地及び運動公園など
スタジアム整備候補地の土地の抽出基準や土地の評価基準を決定	【評価基準】 ・ 土地の特性、まちづくり、交通アクセスの3つの視点で評価
第3回（10月24日）	基準により6か所の土地を抽出
第2回で定めた基準による土地の抽出と土地を比較検討	
第4回（11月●日：書面開催）	協議や調整に多大な時間を要すると見込まれる土地を除外
第3回の検討委員会の意見を整理	3か所の候補地を比較検討
	① 現スタジアムの改修 ② JR清水駅東口ENEOS株式会社製油所跡地 ③ 貝島スポーツ広場 ※検討委員会で比較検討した結果、③貝島スポーツ広場はまちづくりや交通アクセス等の課題があるとして除外された。
【パブリックコメント】	
第5回（2月上旬予定）	—
パブリックコメントを踏まえた委員会意見とりまとめを予定（最有力候補地の選出）	—


# 新サッカースタジアムの検討について

## 4. 候補地の比較・検討


市内で「3.5ha以上の遊休地及び運動公園など」の土地を抽出し、協議や調整に多大な時間を要する土地を除いたところ、「現スタジアム日本平の改修」、「J R清水駅東口エネオス株式会社製油所跡地」、「貝島スポーツ広場」の3か所が候補地となりました。

検討委員会で議論した結果、「貝島スポーツ広場」については、まちづくりやアクセス面などの課題から、比較検討する対象から除外し、下記の2か所となりました。

### 現スタジアムの改修（I A Iスタジアム日本平）

概要	候補地の概要及び留意点	
 <p>面積：約16ha (スタジアム敷地2.3ha) 所有者：静岡市</p>	土地の特性	市が所有しており、災害リスクは改修に支障ないが、現スタジアムは造成し整備しているため、大規模改修には更なる土地の造成が必要となる可能性がある。
	まちづくり	商店街や大型商業施設から距離があり、周辺は住宅地であるため周辺の活性化への寄与は低い。住宅地に隣接しているため騒音や渋滞対策が必要である。
	交通アクセス	公共交通機関から距離があるなど、交通アクセス面には課題がある。現在は、Jリーグ開催時にシャトルバスの臨時運行を実施している。
	【その他】	・改修中のJリーグ等の試合の代替地について検討が必要となる。

### J R清水駅東口E N E O S株式会社製油所跡地

概要	候補地の概要及び留意点	
 <p>面積：約20haの一部 所有者：エネオス(株)</p>	土地の特性	民間所有の土地であるため、使用にあたっては協議が必要であり、使用していないタンクを撤去する必要がある。また、土地利用規制の変更やLNG基地からの保安距離確保の必要性、土壤汚染の可能性、津波や液状化の対策に費用を要する。
	まちづくり	周辺に清水中心市街地や商業施設が存在することから、まちの活性化が期待される。また、敷地はスタジアム以上の面積があるため、敷地内での開発の可能性はある。マンションや建設予定の病院があるため、騒音や交通渋滞対策の検討を要する。
	交通アクセス	鉄道駅に近接していることから、公共交通でのアクセスが良い。一方で、試合終了後の混雑が予想されていることから、対策に費用を要する。主要幹線道路や高速道路からのアクセスが良いが、鉄道が南北に運航していることによる東西交通に課題があり、周辺道路は港湾施設のための道路であるため交通負荷がかからないような対策する必要がある。
	【その他】	・地権者であるエネオス株式会社が進める「次世代型エネルギープラットフォーム」の開発コンセプトに沿った開発計画の検討が必要となる。

## 5. 最有力候補地（案）

- ・「J R清水駅東口E N E O S株式会社製油所跡地」が、まちづくりやアクセス面で評価できるが、多数の課題が存在するため、これらの解決にあたって、どのような対応が必要か、どの程度のコストを要するのか、などを検証する必要がある。
- ・また、これらの課題を解決することが難しい場合の対応として、「現I A Iスタジアム日本平の改修」についても、どの程度のコストを要するのか、あわせて検証を行う必要がある。
- ・なお、貝島スポーツ広場については、まちづくりやアクセス面などの課題に加え、津波、土壤汚染への対応、騒音、渋滞への対策、地権者との調整などの課題が存在するため候補地から除外する。

# ご意見・アイデアなど

お待ちしております!!

意見募集期間 令和4(2022)年12月●日(●)から令和5(2023)年1月●日(●)まで

閲覧(配布)場所 (1)企画課(静岡庁舎新館9階)  
(2)各区の市政情報コーナー  
( 葵区/静岡庁舎新館1階 駿河区/駿河区役所3階  
清水区/清水庁舎4階)  
(3)各生涯学習センター、生涯学習交流館及び図書館  
(4)静岡市ホームページ  
(<https://www.city.shizuoka.lg.jp/●●●●●●.html>)

差し替え



静岡市HP

## 意見提出方法

静岡市サッカースタジアム



郵送	〒420-8602 静岡市葵区追手町5番1号 企画課 あて
ファクシミリ	FAX番号 054-221-1295
持参	静岡市役所 静岡庁舎新館9階 企画課
電子申請	応募専用フォームからご提出ください。 ( <a href="https://logoform.jp/form/●●/●●●">https://logoform.jp/form/●●/●●●</a> )

差し替え



電子申請フォーム

※ 対象となる「市民」とは、市内に居住し、通学し、又は通勤する個人及び市内において事業を行い、又は活動を行う個人又は法人その他の団体をいいます。



IAI スタジアム日本平



JR清水駅東口エネオス株式会社製油所跡地

出展: Google Earth

～お問い合わせ先～

静岡市企画課政策企画・調整係 (電話: 054-221-1002 FAX: 054-221-1295)

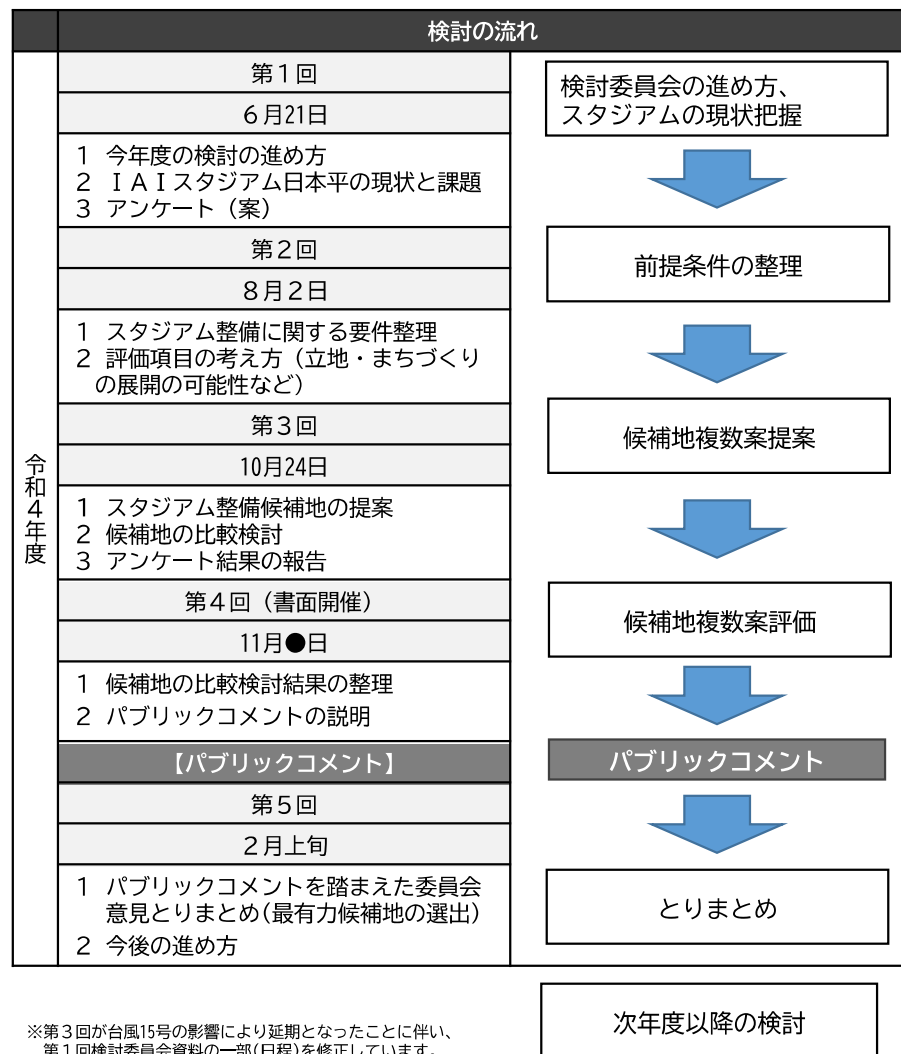


現在のIAIスタジアム日本平はJリーグのスタジアム基準を一部満たしていないことや、アクセス性に課題を有しています。そこで、静岡市では有識者やサッカー関係団体の代表者、経済団体、市民委員で組織する「静岡市サッカースタジアムを活かしたまちづくり検討委員会」を設置し、スタジアムを活かしたまちづくりや、新スタジアム整備の候補地について議論してきました。まちづくりや交通アクセス、整備するうえでの課題等の観点から議論した検討委員会での最有力候補地（案）について、市民の皆様からのご意見を募集します。

## 第1回 検討委員会

第1回の検討委員会では、まず令和4年度の議題やスケジュールといった、検討の進め方について議論しました。また、候補地の検討の参考とするため、市民や利用者等を対象としたアンケートを実施することを決定しました。

### 令和4年度の検討会の進め方



※第3回が台風15号の影響により延期となったことに伴い、第1回検討委員会資料の一部（日程）を修正しています。

### IAIスタジアム日本平の現状と課題

1991年に全国高等学校総合体育大会（インターハイ）のメイン会場として、13,216人収容のスタジアムとして整備されました。その後、1993年に開幕したJリーグに対応するため改修し、20,299人収容のスタジアムとして運営されている。

- 所有者 静岡市
- 管理運営 静岡スポーツスクエア共同事業体（（公財）静岡市まちづくり公社・（株）エスパルス）
- 所在地 静岡市清水区村松3880-1（下記の地図参照）
- 施設概要 開場年 1991年開業、収容人数 20,299席



Googleマップより引用 ©2022 Google



#### 【IAIスタジアム日本平の課題】

IAIスタジアム日本平は、Jリーグのスタジアム基準で定められている「観客席の屋根のカバー率」が不足している。

また、スタジアム基準外ではあるが、交通アクセスや座席等の設備が経年劣化している等の課題がある

Jリーグスタジアム基準（2022年：屋根に関する事項を抜粋）

- ① 新設及び大規模改修を行うスタジアムについては、原則として屋根はすべての観客席を覆うこと。
- ② すべての観客席を覆うこと（観客席の3分の1以上が覆われていること：Jリーグクラブライセンス交付規則 施設基準B等級） ※IAIスタジアム日本平：屋根のカバー率26%

#### アンケート調査

##### (1) 市民アンケート

調査対象：18歳以上の市民（無作為抽出、1,500名）

実施時期：令和4年8月10日～26日

内容：サッカーへの関心、観戦頻度、交通手段、スタジアムに期待すること等

##### (2) 利用者等アンケート

調査対象：サッカースタジアム利用者等（WEBアンケート）

実施時期：令和4年8月17日～31日

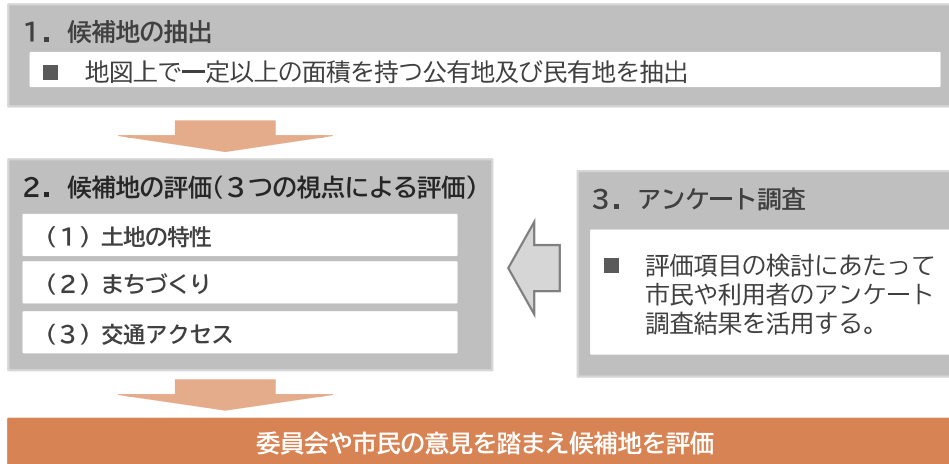
内容：観戦歴、交通手段、スタジアムに期待すること、現スタジアムの課題等

# 静岡市サッカースタジアムを活かしたまちづくり検討委員会での検討について（概要版）

## 【第2回 検討委員会】

第2回の検討委員会では、新サッカースタジアム整備候補地の選定にあたっての、土地の抽出基準や評価方法について議論し、「3.5 ha以上の遊休地及び運動公園など」を抽出し、アンケート調査の結果を参考に、3つの視点・11の項目で評価することとなりました。

### 立地検討にあたっての要件及び評価の進め方



### 1. 候補地の抽出

現在のI A Iスタジアム日本平の収容人数2万人を基準に、サンガスタジアム by KYOCERA（収容人数21,600人）の敷地面積約3.3haを参考とし、静岡市内から以下の条件で抽出する。

ただし、山間部の市有林を大規模造成するなど現実的でない土地は除く。

・公有地及び私有地：3.5 ha以上の遊休地及び運動公園 など



### 2. 候補地の評価（3つの視点による評価）

「1 候補地の抽出」で定めた基準で抽出された土地を、土地の特性、まちづくり、交通アクセスの3つの視点・11の項目で評価し、最有力候補地を選定することとなりました。

視点		評価方法
1 土地の特性	① 保有状況	■ 市有地か、又は国・県の公有地や企業・個人の民間の土地であるか
	② 土地の形状	■ フィールドを南北方向に設置できるか(※スタジアム標準)
	③ 関係法令	■ 当該土地に関する法令の位置付けはどうなっているか(都市計画法、建築基準法、港湾法、埋蔵文化財法など)
	④ 都市計画	■ 都市マスタープランや立地適正化計画との関係性はどうか
	⑤ 災害リスク	■ 土砂災害(特別)警戒区、津波浸水想定区域、大雨や高潮による浸水想定区域であるか
2 まちづくり	① 周辺の活性化	■ 中心市街地や大型商業施設や商店街等と近接しているか
	② 周辺開発の可能性	■ スタジアムに必要な面積以外に活用できる余地があるか
	③ 周辺環境への影響	■ 影響を与える住宅地や事業所等はあるか(騒音・振動・渋滞)
3 交通アクセス	① 公共交通でのアクセス	■ 静岡市内の主要最寄り駅から、候補地までの所要時間 ■ 候補地まで20分以内にアクセスできる人口(自動車、公共交通(電車)、徒歩)
	② 自家用車でのアクセス	■ 市内からアクセスしやすいか(主要幹線道路からのアクセス性) ■ 市外・県外からアクセスしやすいか(高速道路ICからのアクセス性)
	③ 周辺道路	■ 周辺道路は整備されているか(自動車及び歩行者動線)
総合評価		

# 静岡市サッカースタジアムを活かしたまちづくり検討委員会での検討について（概要版）

## 【第3回 検討委員会】

第3回の検討委員会では、基準に基づき抽出された土地について、項目ごとの評価や市民・利用者等アンケートの結果を踏まえ、候補地を比較検討し、検討委員会としての意見をまとめました。

### 候補地の選定のフロー

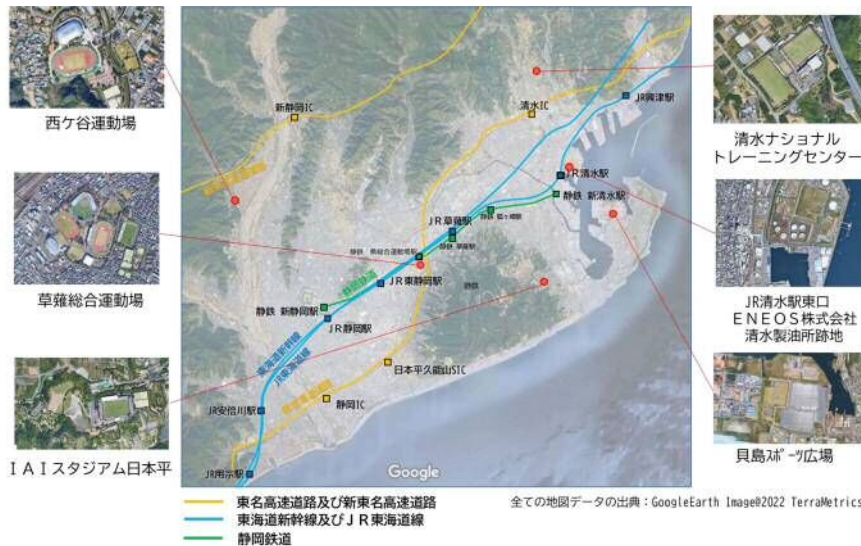


### 1 土地の抽出

第2回検討委員会で定めた土地の抽出基準に基づき、6か所の土地が抽出されました。

候補地	敷地面積	管理者	土地所有者	土地利用
① 現スタジアムの改修 (現スタジアム敷地)	約16ha (2.3ha)	市	市	市街化調整区域 都市公園
② 草薙総合運動場	約24ha	県	県	第一種中高層住居専用地域 都市公園
③ JR清水駅東口 ENEOS株式会社清水製油所跡地	約20haの内の一部	民間	民間	工業専用地域 臨港地区
④ 西ヶ谷総合運動場	約12.3ha	市 (借地)	民間	市街化調整区域
⑤ 貝島スポーツ広場	約6.1ha	市 (借地)	民間	工業専用地域 臨港地区
⑥ 清水ナショナルトレーニングセンター	約4.7ha	市	市	都市計画区域外 (一部市街化調整区域)

### 【抽出された土地の位置図】



### 2 1次選考

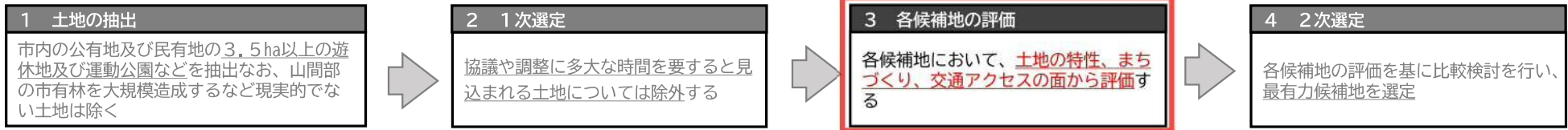
抽出された土地のうち、② 草薙総合運動場、④ 西ヶ谷総合運動場、⑥ 清水ナショナルトレーニングセンターについては、協議や調整に多大な時間を要すると見込まれる土地で、候補地から除外することとなりました。

土地	敷地面積	管理者	土地所有者	土地利用	理由
① 現スタジアムの改修 (現スタジアム敷地)	約16ha (2.3ha)	市	市	市街化調整区域 (都市公園内)	—
② 草薙総合運動場	約24ha	県	県	第一種中高層住居専用地域 (都市公園内)	<ul style="list-style-type: none"> <li>すでに建ぺい率の上限近くまでスポーツ施設が整備されていることから、既存施設の改修や新たな土地取得が必要となる。</li> <li>サッカー専用スタジアムとなることから、陸上トラックなど、現機能の移転代替を行うためには、大規模な整備が必要となる。</li> </ul>
③ JR清水駅東口 ENEOS株式会社清水製油所跡地	約20haの内の一部	民間	民間	工業専用地域 臨港地区	—
④ 西ヶ谷総合運動場	約12.3ha	市 (借地)	民間	市街化調整区域	<ul style="list-style-type: none"> <li>サッカー専用スタジアムとなることから、陸上トラックなど、現機能の移転代替を行うためには、大規模な整備が必要となる。</li> </ul>
⑤ 貝島スポーツ広場	約6.1ha	市 (借地)	民間	工業専用地域 臨港地区	—
⑥ 清水ナショナルトレーニングセンター	約4.7ha	市	市	都市計画区域外 (一部市街化調整区域)	<ul style="list-style-type: none"> <li>現トレーニングセンターなど、現機能の移転代替を行うためには、大規模な整備が必要となる。</li> </ul>



# 静岡市サッカースタジアムを活かしたまちづくり検討委員会での検討について（概要版）

## 候補地の選定のフロー



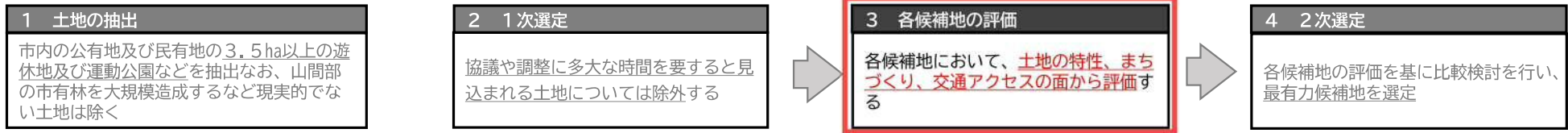
## 3 各候補地の評価

抽出された3つの候補地について、3つの視点・11の項目で評価し、留意点についても整理しました。

区分	現スタジアムの改修 (IAIスタジアム日本平)	JR清水駅東口 ENEOS株式会社 清水製油所跡地	貝島スポーツ広場
面積	約16ha (現スタジアム敷地2.3ha)	約20haの内の一部	約6.1ha
① 保有状況	静岡市	民有地 (現況：未利用タンクが立地)	民有地 (現況：野球グラウンド)
② 土地の形状	既存のスタジアムを活用するため、南北方向への建設は困難	南北方向に建設可能	南北方向に建設可能
③ 関係法令	市街化調整区域 (建ぺい率 60%、容積率 200%) 都市公園内、第1種風致地区 日影規制	工業専用地域 (建ぺい率 60%、容積率 200%) 臨港地区、ガス事業法、石油コンビナート等災害防止法 土壌汚染対策法	工業専用地域 (建ぺい率 60%、容積率 200%) 臨港地区
④ 都市計画	都市マスタープラン：自然調和ゾーン 立地適正化計画：区域外	都市マスタープラン：ゆとりある市街地ゾーン 立地適正化計画：ゆとりある市街地形成区域	都市マスタープラン：ゆとりある市街地ゾーン 立地適正化計画：ゆとりある市街地形成区域
⑤ 災害リスク	土砂災害：なし (敷地の一部が土砂災害警戒区域) 津波：なし 液状化：- (不明) その他：なし	土砂災害：なし 津波：津波浸水深2~3m 液状化：液状化可能性大 その他：なし	土砂災害：なし 津波：津波浸水深2~3m 液状化：- (不明) その他：なし
① 周辺の活性化	最寄りの商店街まで 次郎長通り商店街 3.3km 最寄りの大型商業施設まで バイドリーム清水 2.1km	最寄りの商店街まで 清水駅前銀座商店街など 0.3km 最寄りの大型商業施設まで エスパルスドリームプラザ 1.5km 清水河岸の市 0.2km	最寄りの商店街まで 次郎長通り商店街 6.2km 最寄りの大型商業施設まで バイドリーム清水 4.0km
② 周辺開発の可能性	スタジアムは都市公園内に立地 周辺は山林と住宅地	敷地はスタジアム以上の面積であることから、開発可能性はあると考えられる。中心市街地への好影響が期待される。	立地を考慮すると敷地内、敷地周辺への駐車場の設置が必要である。周辺の開発の可能性については、地権者等の意向を確認していないため、現時点では判断できない。
③ 周辺環境への影響	最寄りの住宅地までスタジアムから 150m 留意すべき施設までスタジアムから 静岡市立清水病院 700m	最寄りの住宅地まで 800m 留意すべき施設まで敷地境界から (仮称) 清水さくら病院 100m 港湾関連施設及び企業が周辺に立地	最寄りの住宅地まで敷地境界から750m 周辺には工場棟が立地しており、近隣に病院や学校などの施設はない。
① 公共交通でのアクセス	バス：JR清水駅から 27分 (バス停から徒歩10分含む) [20分圏域人口] タクシー：JR清水駅から 13分 タクシー20分圏内：155,840人 徒歩：JR清水駅から 71分 徒歩20分圏内：3,507人	バス：JR清水駅から 一分 [20分圏域人口] タクシー：JR清水駅から 一分 電車及び徒歩20分圏：133,012人 徒歩：JR清水駅から 3分 タクシー20分圏：231,093人 徒歩20分圏：15,537人	バス：JR清水駅から 39分 (バス停から徒歩14分含む) [20分圏域人口] タクシー：JR清水駅から 18分 タクシー20分圏内：51,800人 徒歩：JR清水駅から 96分 徒歩20分圏内：6,683人 (日の出から水上バス利用約50分)
② 自家用車でのアクセス	国道1号長崎IC 6.9km、18分 県道407号(南幹線)から 4.0km、10分 国道150号から 2.0km、5分 東名高速道路 清水ICから 7.7km、20分	国道1号(庵原交差点)から 3.2km、7分 国道149号から 0.7km、2分 東名高速道路 清水ICから 3.5km、8分 ※幹線道路に近いものの、JR東海道線により東西交通に課題あり	国道1号庵原交差点から 11.0km、25分 県道407号(南幹線)から 7.2km、18分 国道150号から 3.0km、9分 東名高速道路 清水ICから 11.3km、26分
③ 周辺道路	東側：- 西側：市道幅員約7mに接道 南側：市道幅員約5mに接道 北側：市道幅員約12mに接道	東側：- 西側：臨港道路約30.5mに隣接 南側：臨港道路約17.0mに隣接 北側：-	東側：- 西側：- 南側：市道幅員約10mに接道 北側：-
留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市有地であるため整備が可能。</li> <li>・現スタジアムに全面屋根を設置するためには造成が必要となる可能性がある。</li> <li>・周辺は住宅地であるため、周辺の活性化や開発可能性は限定的である。</li> <li>・駅や幹線道路から距離があるなど、公共交通や自家用車でのアクセスに課題がある。</li> <li>・改修中のJリーグ等の試合の代替地について検討が必要となる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・民有地であり、使用にあたっては協議が必要である。</li> <li>・使用していないタンクの撤去が必要である。また、製油所跡地であるため土壌汚染の調査が必要である。</li> <li>・「次世代型エネルギープラットフォーム」の開発コンセプトに沿った開発計画の検討が必要となる。</li> <li>・LNG基地との保安距離を確保する必要がある。</li> <li>・臨港地区・工業専用地域であるため、スタジアム整備には都市計画制度の活用や変更が必要となる。</li> <li>・津波や液状化の対応に費用を要する可能性がある。</li> <li>・公共交通でのアクセスが良いが、試合終了時の混雑等への対応に費用が必要となる。</li> <li>・スタジアム以上の敷地面積があるため、開発可能性はあると考えられる。</li> <li>・清水中心市街地や商業施設にも近接しているため、周辺のまちの活性化が期待できる。</li> <li>・近隣病院等への対応、対策を検討する必要がある。</li> <li>・隣接する港湾道路への負荷の軽減を図る必要があり、対応に費用を要する可能性がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・民有地であり、使用にあたっては協議が必要である。</li> <li>・臨港地区・工業専用地域であるため、スタジアム整備には都市計画制度の活用や変更が必要となる。</li> <li>・津波浸水想定区域であり、対策に費用を要する。</li> <li>・商店街や大型商業施設からは距離があり、周辺は工場用地であることから、周辺活性化への寄与は低い。</li> <li>・敷地内は駐車場としての活用が想定されるため開発の可能性は低い。</li> <li>・また、周辺は工場が立地しており、開発の可能性は低い。</li> <li>・駅から離れていることや半島の地形上の特性から、公共交通、自家用車ともにアクセスに課題がある。</li> <li>・清水港湾計画で臨港道路が計画されているため調整が必要になる。</li> </ul>

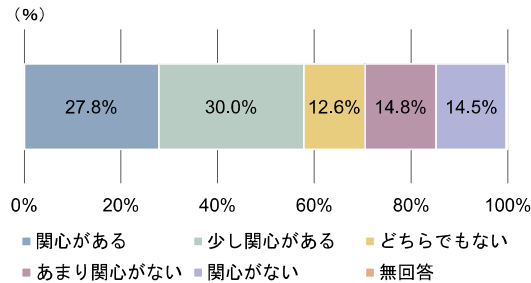
# 静岡市サッカースタジアムを活かしたまちづくり検討委員会での検討について（概要版）

## 候補地の選定のフロー



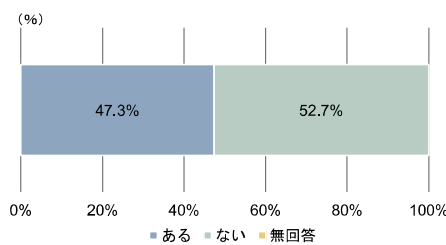
## 市民アンケート結果（抜粋） 回収率：約45%（676/1,500件）

### Q 市民のサッカーへの関心の有無



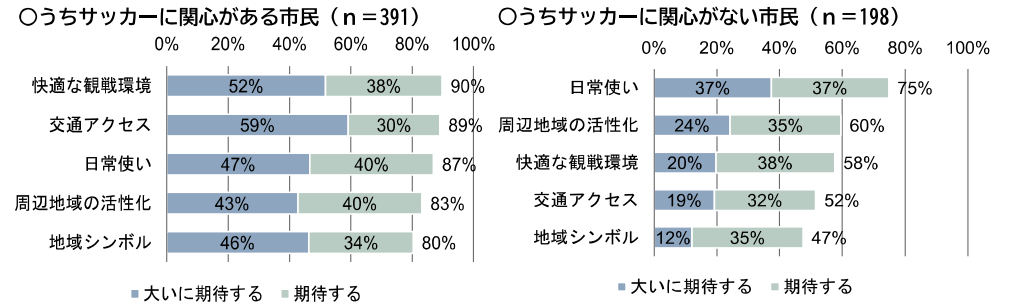
- サッカーに関心がある、少し関心がある人は57.8%と過半数を超える。

### Q I A I スタジアム日本平での観戦実績



- スタジアムの観戦の有無では、観戦経験がある人が47.3%である。

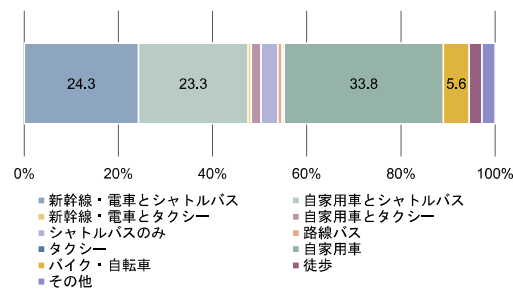
### Q 市民がスタジアムに期待すること



- サッカーに関心がある市民は、「快適な観戦環境」が最も高く、次いで「交通アクセス」、「日常使い」の順に高い。
- サッカーに関心がない市民は、「日常使い」が群を抜いて高く、次いで「周辺地域の活性化」が高い。
- ※市民全体では、「日常使い」が最も期待されている。

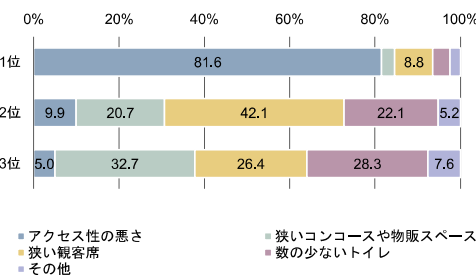
## 利用者等アンケート結果（抜粋） 回答数：8,055件

### Q I A I スタジアム日本平までの交通手段



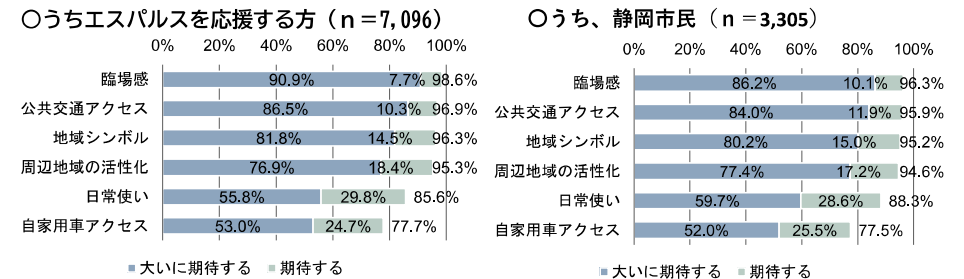
- 「自家用車」が33.8%と最も多く、次いで「新幹線・電車とシャトルバス」、「自家用車とシャトルバス」の順に多い。
- 利用者の51.1%がシャトルバスを利用している。

### Q I A I スタジアム日本平の課題（屋根のカバー率不足を除く）



- I A I スタジアムの課題は、第一位に「アクセス性の悪さ」を挙げている人が81.6%いる。
- サッカーに関心がある人は、アクセス性の悪さ、狭い観客席、狭いコンコースや物販スペースの順に割合が高い。

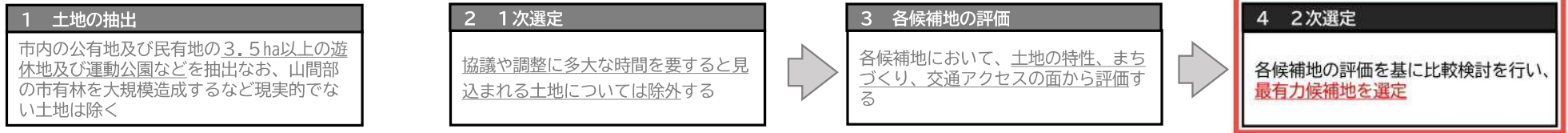
### Q スタジアムに期待すること



- エスパルを応援している方は臨場感、公共交通アクセス、地域シンボルの順に高く、静岡市民についても同様の順で期待している。
- 自家用車アクセスよりも、公共交通アクセスを期待する割合が多い。

# 静岡市サッカースタジアムを活かしたまちづくり検討委員会での検討について（概要版）

## 候補地の選定のフロー



## 4 2次選定

「3 各候補地の評価」やアンケート調査結果を踏まえ、下記のとおり、検討委員会としての結論が整理された。

### 【第3回検討委員会での候補地に関する委員の主な意見】

分類	発言
現スタジアムの改修 (IAIスタジアム日本平)	・ I A I スタジアムに愛着を持っているファンも多いが、改修して屋根をつけてもアクセス面の課題は解決されない。
J R清水駅東口 エネオス株式会社製油所跡地	・ スタジアムを中心に考えがちであるが、まちづくりの視点も重要である。J R清水駅周辺についてはガイドプランがあるのでまちの将来像は既に出来ている。(清水みなとまちづくりランドデザイン：清水駅東口・江尻口ガイドプラン)
貝島スポーツ広場	・ 工業専用地域であることや、周辺人口を踏まえるとまちづくりの効果は発揮しにくい。 ・ 交通アクセスの観点からも、候補地から外しても良い。 ・ 過去に工業で利用していた履歴があるため、土壌汚染の可能性もある。 ・ 三保（貝島）のアクセス向上のため橋を架けるという方法もある。 ・ 世界遺産のバッファゾーンであることなど、課題は多く橋を架けることは現実的ではない。 ・ スタジアムへのアクセスは複数の交通手段があることが望ましいが、この場所は難しい。
その他 (防災・比較検討全般など)	・ 災害リスクへの対応はコストに影響するのでそれが明らかになっていない状況で候補地を絞り込むのは難しい。また、スタジアムを防災拠点とする考え方もあるが、求められる基準が上がるためコストが増加する要因になる。 ・ 今年度コストの詳細を調査することは難しいので、来年度にコスト等の詳細な調査をする前提で議論を進めるべき。 ・ 様々な対策やインフラ整備以外に、騒音や渋滞といった社会的コストも考えなれいけない。また、整備する場合には近隣の住民などにも説明する必要がある。 ・ 来年度の調査ではコスト面だけではなく、収益にもつながるような経済的な効果も考えていく必要がある。

### 【検討委員会における候補地の比較・評価（第3回検討委員会の各候補地の総括）】

- ・ 「現 I A I スタジアム日本平の改修」については、屋根などの改修を行うことによって、Jリーグスタジアム基準を満たすことはできるが、まちづくりやアクセス面に課題が存在する。
- ・ 「J R清水駅東口 E N E O S 株式会社製油所跡地」については、まちづくりやアクセス面で評価はできるが、一方で、津波、液状化、土壌汚染への対応、騒音、渋滞への対策、地権者との調整などの課題が存在する。
- ・ 「貝島スポーツ広場」については、まちづくりやアクセス面などに課題が存在することに加え、津波、土壌汚染への対応、騒音、渋滞への対策、地権者との調整などの課題が存在する。

### 検討委員会の結論

- ・ 「J R清水駅東口 E N E O S 株式会社製油所跡地」が、まちづくりやアクセス面で評価できるが、多数の課題が存在するため、これらの解決にあたって、どのような対応が必要か、どの程度のコストを要するのか、などを検証する必要がある。
- ・ また、これらの課題を解決することが難しい場合の対応として、「現 I A I スタジアム日本平の改修」についても、どの程度のコストを要するのか、あわせて検証を行う必要がある。
- ・ なお、貝島スポーツ広場については、まちづくりやアクセス面などに課題が存在することに加え、津波、土壌汚染への対応など多くの課題が存在するため候補地から除外する。

# 参考資料：他のスタジアム整備事例

# 参考資料①

名称	パナソニックスタジアム吹田 (参照：スポーツ庁HP、ガンバ大阪HP、パナソニックスタジアム吹田HP)										ミクニワールドスタジアム北九州 (参照：日経BPHP、北九州市HP、ミクニワールドスタジアム北九州HP、(一社)PC建設協HP)										
所在地	大阪府吹田市										福岡県北九州市										
地権者	大阪府（府立公園内）										民間（市が借地権設定）										
アクセス	鉄道駅から徒歩20分										新幹線駅から徒歩7分										
竣工	2015年9月										2017年1月										
収容人数	40,000人										15,300人										
整備手法	任意団体（スタジアム建設募金団体）を設立して募金を募り建設主体となる。建設後に、スタジアムを吹田市に寄付。										PFI（BOT方式）（事業者が設計・建設し、市に所有権移転後、維持管理・運営を15年間）										
建設主体	任意団体										PFI業務受託者（SPC代表企業：㈱九電工）										
建設費	約141億円（法人寄付約99.5億円、個人寄付約6.2億円、toto助成金30億円、国庫補助約5.1億円）										約99.9億円（市債68.3億円、一般財源約0.2億円、国庫補助金等約1.4億円、toto助成金30億円）										
所有者	吹田市										北九州市										
運営	指定管理（ガンバ大阪）										PFI（美津濃㈱、㈱日本施設協会）										
整備スケジュール	2008年度 (1年目)	2009年度 (2年目)	2010年度 (3年目)	2011年度 (4年目)	2012年度 (5年目)	2013年度 (6年目)	2014年度 (7年目)	2015年度 (8年目)	—	—	2008年度 (1年目)	2011年度 (2年目)	2010年度 (3年目)	2011年度 (4年目)	2012年度 (5年目)	2013年度 (6年目)	2014年度 (7年目)	2015年度 (8年目)	2016年度 (9年目)	—	
	●スタジアム構想発表	●建設募金団体設立	●設計事業者決定	●候補地決定	●募金開始	●建設工事着工	●募金終了	●供用開始竣工	—	—	●総合計画に球場を位置づける	●新球場基本計画策定・候補地決定	●基本方針策定	●事業計画策定	●PFI事業者決定	●設計着手	●工事着手	●供用開始	—	—	
名称	サンガスタジアム by KYOCERA (参照：京都サンガFCHP、日経BPHP、日本建築学科HP、京都府HP、京都市HP)										中央公園サッカースタジアム（仮称） (参照：広島県HP、広島市HP)										
所在地	京都府亀岡市										広島県広島市										
地権者	府、市（区画整理事業地を購入）										広島市（中央公園広場）										
アクセス	鉄道駅から徒歩3分										鉄道駅から徒歩10分										
竣工	2020年1月										2023年度開業予定										
収容人数	21,600人										28,520人										
整備手法	従来方式										DB方式（設計・工事を一括発注）を基本とする										
建設主体	京都府										広島市										
建設費	約154億円（府債約112億円、一般財源約4.9億円、府基金約5.6億円、toto助成金30億円、寄附約2.1億円）										約271億円（県・市約100.4億円、利用料収入を充当する市債約27.1億円、国庫補助金約80.1億円、寄附金約63億円、民間資金約0.3億円）										
所有者	京都府										広島市										
運営	指定管理（合同会社ビバ&サンガ）										指定管理者制度を採用することを基本とする										
整備スケジュール	2011年度 (1年目)	2012年度 (2年目)	2013年度 (3年目)	2014年度 (4年目)	2015年度 (5年目)	2016年度 (6年目)	2017年度 (7年目)	2018年度 (8年目)	2019年度 (9年目)	—	2013年度 (1年目)	2014年度 (2年目)	2015年度 (3年目)	2016年度 (4年目)	2017年度 (5年目)	2018年度 (6年目)	2019年度 (7年目)	2020年度 (8年目)	2021年度 (9年目)	2022年度 (10年目)	2023年度 (11年目)
	●京都府が用地の無償提供を募る	●候補地が亀岡市に決定	●アユモドキに与える影響調査	●基本設計	●実施設計	●アユモドキへの影響から候補地を変更	●工事着工	●供用開始	—	—	●検討会議発足	●候補地を2案選定 実現可能性調査の実施	●候補地を追加 (中央公園)	●県市商工会議所サンフレッチェで候補地、手法等を協議	●基本方針を策定	●基本計画を策定	●実施設計準備工事	●募金開始	●着工	●スタジアム完成予定 ※広島エリアは24年度	—

※この資料はインターネットで情報収集したものであり、実際の運用と異なる場合がある。



# 参考資料：国内のスタジアム事例の整備・管理運営スキーム

## スタジアム事例の整備・管理運営スキームの一覧

大

### 民間事業者の関り

小

	(野球) ES CON FIELD HOKKAIDO	(サッカー) 里山スタジアム	(サッカー) Panasonic Stadium Suita	(野球) MAZDA Zoom-Zoom Stadium	(サッカー) サンガスタジアム by KYOCERA 埼玉スタジアム2002	(サッカー) ミクニスタジアム 北九州
概要	・民間事業者が整備、所有、管理運営	・民間事業者が整備、所有、管理運営 ・自治体が整備費の一部を補助（財源はふるさと納税）	・民間事業者が整備し、自治体に寄付。（自治体が所有） ・管理運営については独立採算で指定管理	・自治体が整備、所有。（整備費は利用者である球団が施設利用料として納付） ・管理運営は独立採算で指定管理	・自治体が整備、所有。 ・管理運営は利用料金併用制で指定管理	・自治体がPFIによって整備、所有。 ・管理運営はPFI契約を締結している特別目的会社が担う
スキーム図						
整備資金調達	・事業者が調達	・個人・企業の寄付やふるさと納税と事業者の調達の混合	・事業者が個人・企業による寄付によって調達	・広島市が整備（地方債を起債）したが、起債償還原資は事業者からの納付金で充当	・京都府、埼玉県が整備	・市が地方債を起債
運営及び改修、修繕などの状況	・運営は事業者の独立採算 ・改修、修繕については、事業者が実施	（支払いスキームは検討中）	・運営は事業者の独立採算 ・改修、修繕については、事業者が長期修繕積立金を市に納付し市が基金化	・運営は事業者の独立採算 ・起債償還原資は事業者からの納付金等で充当	・施設整備費は市が負担 ・運営費を府（県）が負担	・施設整備費用はPFI事業者に建設費に ・運営費は市がPFI事業に支払
底地権利	・事業者が北広島市の都市公園を無償で設置許可を受ける	・今治市の敷地を無償で事業者に貸付	・吹田市の都市公園の公園施設として整備	・広島市有地に行政財産（公の施設）として整備	・亀岡市が京都府に無償貸与（埼玉県が所有）	・民有地を借地
スタジアム所有	・事業者が所有	・事業者が所有	・吹田市が所有	・広島市が所有	・京都府埼玉県が所有	・北九州市が所有
スタジアム整備	・事業者が整備	・事業者が整備	・任意組合が整備し、市に整備後負担付寄付	・広島市が整備したが、設計には広島カープが関与	・京都府埼玉県が整備	・PFI事業者が設計・施工
スタジアム運営	・事業者が運営	・事業者が運営	・事業者が指定管理の指定を受け運営（独立採算）	・事業者が指定管理や各種協定を締結し運営（独立採算）	・京都サンガ、浦和レッズが指定管理者の指定を受け運営（混合型）	・PFI事業者が運営（ただし、利用料金制は導入されていない）



* 住所 (法人の場合は所在地)	(必須)
* 氏名 (法人の場合は名称及び代表者名)	(必須)
年齢	<input type="checkbox"/> 19歳以下 <input type="checkbox"/> 20代 <input type="checkbox"/> 30代 <input type="checkbox"/> 40代 <input type="checkbox"/> 50代 <input type="checkbox"/> 60代 <input type="checkbox"/> 70歳以上
職業	<input type="checkbox"/> 会社員 <input type="checkbox"/> 公務員 <input type="checkbox"/> 自営業 <input type="checkbox"/> 専業主婦(夫) <input type="checkbox"/> 学生 <input type="checkbox"/> パート・アルバイト <input type="checkbox"/> その他

## 📌ご意見を提出される際の注意事項

- \*印のある欄は必ずご記入ください。(意見の提出に際して、「静岡市市民参画の推進に関する条例施行規則」第5条第4項において、個人の場合は住所及び氏名、法人その他の団体の場合は、名称、所在地及び代表者の氏名を明らかにすることとされています。ご協力をお願いいたします。)
- 個人情報については、厳正に管理を行い、「静岡市市民参画の推進に関する条例」に基づくパブリックコメントの目的以外では使用いたしません。
- いただいたご意見は、「静岡市サッカースタジアムを活かしたまちづくり検討委員会」の参考とさせていただきます。また、個人が特定できないよう編集した上で、意見の要旨を市ホームページ等で公開させていただく場合がありますので、ご了承ください。
- 意見欄に「別紙のとおり」としていただき、別紙を添えて提出していただくことも可能です。
- 対象となる「市民」とは、市内に居住し、通学し、又は通勤する個人及び市内において事業を行い、又は活動を行う個人又は法人その他の団体をいいます。

## 📌ご意見の提出方法

期間内に、意見応募用紙を次のいずれかの方法でご提出ください。

1 郵送	〒420-8602 静岡市葵区追手町5番1号 静岡市役所 企画課 あて
2 ファクシミリ	FAX 番号：054-221-1295
3 持参	企画課（静岡庁舎新館9階）
4 市HP (電子申請)	市ホームページにある応募専用フォームでご提出ください。 右の二次元コードからも提出できます。 ※個人情報保護の観点から、電子メールでのご提出は受付できかねます。



## 📌意見応募用紙と詳しい資料の配架場所は次のとおりです

意見応募用紙の配架場所と、静岡市サッカースタジアムを活かしたまちづくり検討委員会での検討について(概要版)が閲覧できる場所は次のとおりです。

- (1)企画課（静岡庁舎新館9階）
- (2)各区の市政情報コーナー（葵区/静岡庁舎新館1階、駿河区/駿河区役所3階、清水区/清水庁舎4階）
- (3)生涯学習センター、生涯学習交流館、図書館
- (4)静岡市ホームページ (<https://www.city.shizuoka.lg.jp/●●●●●●.html>)

※右の二次元コードからホームページにリンクされます。

